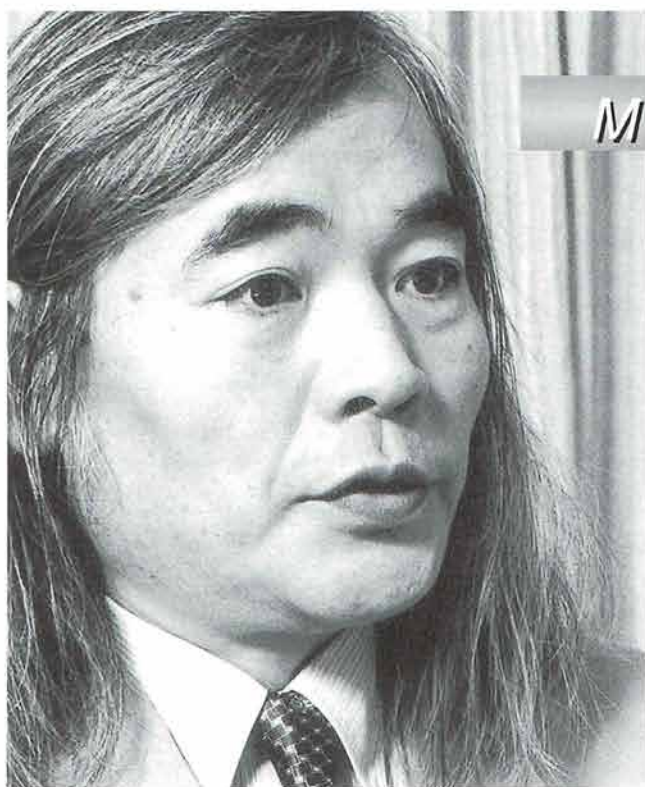


EVENTOLOGY

CONTENTS

イベントシティの創造をめざして 望月照彦・草柳文恵	1
「第1回大会'98—横浜」 開催要項	4
第1回イベント大学 「スポーツイベント学講座」概要	6
イベント学会への提言	7
江戸のイベント口事情	8

イベント学会会報「イベントロジー」 Vol.1 No.2 1998



MY EVENTOLOGY

「第1回大会'98—横浜」に向けて イベントシティの 創造をめざして

望月照彦 (多摩大学教授)
草柳文恵 (キャスター)

この12月4・5日に横浜市でイベント学会第1回大会が開催される。テーマは「イベントシティの創造をめざして」。大会に先立ち実行委員長の望月照彦氏に、イベントシティとは何か、を伺ってみた。

■市民参加、観客参加のイベントシティ 「シティウエア」がキーポイント

草柳 「イベントシティ」という新しい言葉を先生がおつくりになったそうですが、横浜市がいま提唱している「コンベンションシティ」とはどのように違うのでしょうか。

望月 イベントシティは、コンベンションシティも含めた概念として考えたらよいと思います。コンベンションとは国際会議や商品の展示会、見本市などに関して使ってきましたが、例えばワールドカップやオリンピック、万博などはコンベンションとは言い難いところがあるのです。しかしイベントと考えると、イベントとは「事を興す」ことですから、いろいろな意味がその概念の中に入ってくる。ですから、コンベンションシティを否定するのではなく、その概念も含んだものを「イベントシティ」と言ったほうがわかりやすいので



「イベントシティ」は コンベンションシティも 含めた概念として考えたらよいと思う

はないか。それでつけたわけです。

草柳 木村尚三郎先生は、会報の1号で、「イベントとは、「驚き、楽しさ、夢のあるできごと」と書いておられますね。驚き、楽しさ、夢がイベントシティにとっても重要な要素となるのでしょうか。

望月 非常に重要ですね。なぜイベントシティと言うのかというと、一つは先ほど言ったようにコンベンションとかメッセを含んだ集客型の都市にしようということです。二つ目に、今までは行政や主催者が中心でしたけど、これからはそこに住む人、そこにきていただける人がその都市や催し物を楽しむという、市民参加、観客参加が重要になってくる。三つ目が今まで行政がお金を投入するのは、文化センターや劇場、美術館といったハードウェアが多かったのですが、これからはそれをどう使っていくかというソフトウェアが問題になっている。私は都市のソフトウェアを「シティウエア」と言っています。都市を出会いと楽しみにあふれた街にするにはどうしたらよいか。ですからコンベンションシティからイベントシティに変わっていくときに、大きな概念の転換はシティウエアにあると思います。

■ イベントシティの形—— 祭り、コンベンション、博覧会、 エンターテインメント

草柳 もうすでにイベントシティとして機能している都市はあるのでしょうか。

望月 たぶんイベントシティというのは世界で最初概念になると思います。海外へ行ってもあまり聞いたことがないですよ。イベントという考え方も欧米では日本とは違っていますから。今のところ、私は4種類ぐらいのイベントシティがあると思っています。一つは祭りとかカーニバルの行なわれる祝祭都市、例えばブラジルのリオデジャネイロがあります。リオのカーニバルはあまりに有名でしょう。二つ目は先程のコンベンション、メ

ッセの開催される都市です。ドイツで言えばハノーバー、フランクフルト。アメリカではシカゴ、サンフランシスコなどですね。三つ目が博覧会、オリンピックのような大きな催し物が行なわれる都市です。かつてのパリ、ロンドンがそうですし、いまポルトガルのリスボンで「海と人類の未来」をテーマに博覧会をやっていますね。四つ目が非常に新しいタイプのイベントシティで、エンターテインメントシティです。これに我々は一番注目しなければいけない。エンターテインメントとは本来「お招き」ということですね。アーバン・エンターテインメントというのは、街が客を招くわけです。草柳さん、どこがそうだと思いますか。草柳 ラスベガスとか。

望月 まさにそうですね。ラスベガスは大きな博覧会をやったわけでないし、宗教的な祭りをやったわけでない。ただコンベンションでは有名だったんです。カジノがありますから、アフターコンベンションでカジノに来てもらうという都市戦略があった。いまやさまざまなエンターテインメントが都市の中に組み込まれている。いま日本でも商店街の空洞化で困っているようですが、例えばダウンタウンにフリーモントストリートという商店街があります。そこに市と観光局が一緒になって大天蓋をつくったんですよ。コンピューターでコントロールする映像を映し出して、夜になると子どもや大人が大勢それを見に集まります。年々ここを訪れる人が増えているのには驚きますね。

■ 都市名所がパッチワークのように 埋め込まれた横浜でどんな 「もてなし」ができるか

望月 いま四つの類型を言いましたが、もっと新しい類型もあるかもしれません。したがって懸賞論文も「コンベンションシティ横浜を創造する」という出題では、国際会議や見本市に集約してしまって少し広がりが無いと思



望月照彦

多摩大学経営情報学部教授、望月照彦研究所代表。1943年生まれ。日本大学理工学部大学院修了後、79年望月照彦都市建築研究所設立。90年望月照彦研究所に改称。専門分野は都市創造、産業振興、ウォーターフロントなど。行政、民間のプロジェクトを多く手掛ける。

いますが、「イベントシティ横浜を創造する」となると、もっとフレキシブルにいろいろなことが考えられる。例えば私は世界バザール博覧会ができるんじゃないかと(笑)。



ラスベガスのホテル・ニューヨーク・ニューヨーク。
建物が客を驚かせるデザインになっている。



ラスベガスのフリーモントストリートのエクスベリエンスを創ることで活性化に成功した。映像メディアのパビリオ

草柳 エジプトやトルコのバザールを持ってきちゃうということですね。

望月 そうです。少しアイデアを出してしまっただけ、これを越えるアイデアをいろいろな人に、とくに市民の方に提案してほしいですね。

草柳 私も横浜生まれの横浜育ちですけど、横浜は行くたびによく変わっているような気がしますね。ふるさとの姿が変わってしまったと嘆く方がいらっしゃるんですが、私は横浜が発展だけでなく面白くなっていく街だということにとっても期待しているんですね。

望月 横浜の面白いところは、都市名所の古いもの、新しいもの、国際的なもの、日本的なものなどがパッチワークのように埋め込まれているんですね。そのパッチワークがヒューマンスケールなんです。だから時間をかけて楽しみながら歩くことができる。例えば元町という商店街があって、隣に中華街がある、MM21もあり、ウォーターフロントもあれば、野毛山の下面白い昔風の飲み屋街もある。中村川の周域の風呂屋の2階には劇場もある。パッチワークの中でそれぞれのイベントがお客さんにおもてなしをする。これは鬼に金棒なんです。ハードなロケーションにシティウエアを注入していくことがイベントシティの非常に大事なところなんです。これを注入するのは行政だけではできません。企業だけでもできません。市民の役割が重要です。例えば市民が中村川のウォーターフロントを遊歩道にしていこうとかいうような動きが出てほしいですね。

■日常を離脱するのではなく、日常そのものを豊かにしていくヒントを得る

望月 だから規模はそんなに大きくなくていいので、市民がおもてなしをするための催し物を考えていくということが大事です。私の好きな言葉に「カルチュラルエンターテインメント」(文化のもてなし)があります。風土とか人柄というように、地域に根ざした生活の中からじわじわと滲みだしてくるものです。これはイベントシティ創造のための大事な要素になると思います。

草柳 ワールドカップの開催地のツールーズでボランティアで参加していた女性が、来ていただいた方たちにツールーズに何回も来たいと思ってもらえるようなもてなしをしたい、と言っていました。これもカルチュラルエンターテインメントだと思います。

望月 我々は確かに日常を忘れて非日常的な環境を体験することを求めています。しかし、21世紀に向けて考えていかなければいけないのは、日常を離脱することでなくて、日常そのものを豊かにしていくヒントを得ることだと思う。実際、ヨーロッパの田舎がいま人気でしょう。何百年も変わらない淡々とした風景や生活を見て感動した、という人が増えている。横浜市はMM21という素晴らしい非日常的なエンターテインメントがある一方で、何百年も続いた庶民の生活が息づいている。こういうことがそこを訪れる人に感動を与える大事な要素だと思います。

草柳 本日はありがとうございました。



草柳文恵

横浜生まれ。青山学院大学フランス文学科卒業。在学中よりマスメディアを舞台に、司会、キャスター、インタビュアー、執筆などの仕事を始め、現在に至る。コーディネーター、パネリストとしてシンポジウムへの参加も多い。観光政策審議会委員。東北放送「お元気ですか」にレギュラー出演中。

イベント学会第1回大会 '98 - 横浜

「イベントシティの創造をめざして」

大会開催要項

■主催

イベント学会

■共催

横浜市

■後援(予定)

(社)日本イベント産業振興協会・横浜商工会議所・中区商店街連合会・野毛地区街づくり会・伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合・(協)元町SS会・横浜中華街発展会協同組合・馬車道商店街協同組合・関内を愛する会・ヨコハマズベストコレクション

◆趣旨

イベント学会は、本年3月、世界で初めて設立されたイベント学の学会です。

「イベント学会第1回大会」は、本学会の最初の大会であるばかりでなく、広く社会に開かれた学会として、学会というイベントを通じて開催都市や市民との協同(コラボレーション)を試みます。さらに大会では「イベントシティ横浜の創造をめざして」をテーマとする論文を募集する予定で、交流で得た知見を大いに生かしてほしいと願っています。

◆開催日時

1998年12月4日(金)～5日(土)

◆開催会場

メイン会場・・・パシフィコ横浜・会議センター
イベントフォーラム
「いいじゃん街塾－横浜」会場……………横浜市内飲食店 他

◆参加資格

イベント学会会員、横浜市民 他

◆参加費用

①イベント学会 会員(準会員を除く)……………9,000円
準会員(学生、大学院生等)……………3,000円
*但し、イベント学会臨時総会のみ参加される方は、無料となります。
②会員以外の方……………10,000円
*但し、横浜市民の方は、横浜市共催のため各プログラムの定員の範囲内で先着100名様までは無料ご招待とさせていただきます。
*但し、当学会員で横浜市民の方は対象外となりますので予めご了承ください。
★イベントフォーラム「いいじゃん街塾－横浜」
参加料は上記①②とも別途5,000円です。

◆参加手続

①会員 ……参加申込書に必要事項を記入の上、
下記までFAXもしくは郵送でお申し込みください。
②会員以外の方(横浜市民 他)
……………下記まで電話にてお申し込みください。
※各プログラムとも、定員になり次第締め切らせていただきます。

「イベント学会第1回大会'98－横浜 実行委員会事務局」
〒143-0016 東京都大田区大森北2-2-10・4F
TEL. 03-5762-0244 FAX. 03-5762-0246

プログラム

◆12月4日(金)

プログラム	会場	定員
13:30		
1 シティオリエンテーション 「コンベンション都市－横浜」	パシフィコ横浜 会議センター 4F 402	60名
	「横浜市内コンベンション施設 視察バスツアー」 横浜市内	
17:00		
18:00		
2 イベントフォーラム 「いいじゃん街塾－横浜」	横浜市内 飲食店	200 ～ 300 名

◆12月5日(土)

プログラム	会場	定員
10:00		
3 イベント大学 「メディアとスポーツイベント」 ■基調講演 「マルチメディア時代のスポーツイベント」 杉山 茂(スポーツプロデューサー) ■パネルディスカッション	パシフィコ横浜 会議センター 5F 511	100名
12:00		
13:00		
14:00		
4 記念シンポジウム ■あいさつ 高秀秀信(横浜市長) ■記念講演 木村尚三郎(イベント学会会長) ■パネルディスカッション 「イベントシティ横浜を創造する」 ・コーディネーター 井関利明(慶応義塾大学教授) ・パネラー 望月照彦(多摩大学教授) 他 ■次回開催地発表	パシフィコ横浜 会議センター 5F 小ホール	300名
17:00		
18:30		
5 懇親パーティー	パシフィコ横浜 会議センター 5F 502	

は横浜市民 他の方々も参加可能なプログラムです。

プログラム概要

1 シティオリエンテーション

◆趣旨：横浜市がめざす「創造的コンベンション都市」とは何か、を横浜市長（予定）からお話しいただきます。その後、バスに分乗し、引き続き市の方より、横浜市内の代表的なコンベンション施設をご案内していただきます。

◆会場：パシフィコ横浜 → 横浜市内のコンベンション施設
◆対象：イベント学会会員のみ
◆テーマ：「創造的コンベンション都市—横浜」

2 イベントフォーラム「いいじゃん街塾—横浜」

◆趣旨：横浜におけるイベントのあり方や横浜らしいイベント等について横浜市民とイベント学会会員の間でお酒や食事を楽しみながらひと晩語り明かします。
◆会場：横浜市内の飲食店5～10ヶ所を予定。
◆定員：各会場の収容人員により多少異なりますが、1会場20～30名を予定。

◆講師：各会場に塾頭(当学会員)を1名選任し、地元横浜およびその他著名な講師を各会場のグループに応じて配します。
◆テーマ：各会場およびグループでの討議テーマは、塾頭に一任する予定です。
※イベントフォーラムの詳細は、お申し込みいただいた方々に別途ご案内いたします。

3 イベント大学

◆趣旨：「イベント大学」は、特定のテーマについてより深く研究しようとする学会員のための、継続的な研究活動計画です。1998年度の「イベント大学」として「スポーツイベント学講座」を開講します。本講座の詳細は6ページをご覧ください。本大会では学会員以外の方々にもご参加いただけます。

4 記念シンポジウム

◆趣旨：世界初のイベント学会第1回大会のホストシティ横浜市からのあいさつと、イベント学会 木村尚三郎会長による記念講演が行なわれます。パネルディスカッションは、イベント学会 井関利明副会長をコーディネーターに、イベント学会および地元を代表する多彩な顔ぶれのパネラーによる白熱した議論を展開。「イベントシティとしての横浜の未来像」をさぐります。
◆テーマ：「イベントシティ横浜を創造する」

5 懇親パーティー

◆趣旨：当大会にご参加いただいたすべての方が、イベントについて語り合える場、交流の場として用意いたしました。著名なプロデューサーやプランナーの方々との接点をつくる絶好のチャンスです。ふるってご参加ください。

パシフィコ横浜・会議センター

横浜市西区みなとみらい1-1-1

フリーダイヤル ☎0120-045-221

総合案内 ☎045-221-2155

- ・ JR線・市営地下鉄線・東急東横線「桜木町駅」より徒歩12分、または市営バス5分。
- ・ JR線「横浜駅」東口より市営バス10分



第1回イベント大学「スポーツイベント学講座」

～マルチメディア時代のスポーツイベントはどうあるべきか～

■主催：イベント学会 ■後援(予定)：文部省、通商産業省、(財)日本体育協会、(社)日本イベント産業振興協会 ■協力：順天堂大学

◆イベント大学とは

イベント大学は、特定のテーマについて、より深く研究しようとするイベント学会員のための、継続的な研究活動計画です。1998年度の「イベント大学」として「スポーツイベント学講座」を開講しますので、ふるってご参加下さい。

◆開講のことは

今回の第1回「スポーツイベント学講座」は、グローバルスタンダード化やマルチメディア時代のスポーツイベントはどうあるべきかという視点から、わが国のスポーツイベントの未来を、講師と学会員と一緒に探る試みである。そのために海外の成功事例と日本の事例の比較、国際的スポーツマーケティングの視点から見た率直な批評などを通じて、21世紀のスポーツイベント像を検証したい。

◆カリキュラム (定員いずれも100名)

コーディネーター：間宮聡夫 順天堂大学教授

開催日時	テーマ・講師	プロフィール
第1講 11月2日(月) 17時～20時 千代田区紀尾井町4-1 ザ・フォーラム	『21世紀のスポーツイベント』 基調講演 マーク・マコーマック IMG会長 「スポーツイベント学の現代的課題」間宮聡夫 順天堂大教授 「スポーツビジネスとしてのゴルフイベント」 大西久光 DSE社長 倉本昌弘 選手会会長 樋口久子 JLPGA会長	マーク・マコーマック 1930年 シカゴ生まれ 500人にのぼるプロスポーツ、音楽やエンターテインメント分野のマネジメント、全英ゴルフ、全米テニス、ウインブルドン、ノーベル財団などのエージェント業、放映権管理などを行うIMG会長として、世界のイベント界でもっとも影響力のある一人。
第2講 イベント学会第1回大会98横浜 12月5日(土) 10時～12時 横浜市パシフィコ横浜	『マルチメディア時代のスポーツイベント』 基調講演 杉山 茂 スポーツイベント プロデューサー 「メディアスポーツの功罪」 「スポーツジャーナリズムとしてのマスメディア」 音上智大学教授 桑田JBL常務理事 民放テレビ局 他	杉山 茂 1936年 東京生まれ NHK在職中は、スポーツディレクター、スポーツ報道センター長として、オリンピックをはじめ多くの番組制作責任者となる。民放、NHK合同の長野オリンピック放送機構マネージングディレクターを歴任。スポーツイベントプロデューサーの権威として一家言をもつ。
第3講～第6講 (開講時間)17時～20時 (会場)文京区本郷 順天堂大学有山記念講堂		
第3講 1月18日(月)	『地域振興とスポーツイベント』 基調講演 佐伯聡夫 筑波大学教授 他	スポーツによる地域振興の国際比較、国体はどう変わるか。
第4講 2月1日(月)又は8日(月)	『企業とスポーツイベント』 基調講演 成田重行(株)ヒューマンルネッサンス代表 他	冠イベントの社会的評価、実業団チームの役割と責任・競技団体の責任。
第5講 3月8日(月)	『スポーツビジネスとスポーツイベント』 基調講演 入江 雄三 (株)電通顧問 他	スポーツイベントプロデューサーの条件、権利ビジネスとしてのスポーツイベント。
第6講 3月29日(月)	『スポーツ競技団体とスポーツイベント』 基調講演 川淵三郎 Jリーグチェアマン	スポーツイベントは競技力向上に役立っているか、競技団体のマネジメントとは。

※講師、テーマの一部変更がある場合もありますので、ご了承ください。

◆参加費用

■会員(学生、大学院生などの準会員を除く)

第1講：第1講のみ参加の場合 10,000円

第1講以外のいずれかの講座と併せて参加する場合 無料

第2講：(ただし第1回大会参加費として 9,000円 4頁参照)

第3講～第6講：いずれも1講座 10,000円

ただし、いずれかの3講座に参加の場合 合計25,000円

4講座すべてに参加の場合 合計30,000円

■準会員 第1講、第3講～第6講：いずれも1講座 2,000円

第2講：(ただし第1回大会参加費として 3,000円 4頁参照)

■会員以外 第1講 15,000円

第2講：(ただし第1回大会参加費として 10,000円 4頁参照)

第3講～第6講：いずれも1講座 15,000円

ただし、いずれかの3講座に参加の場合 合計35,000円

4講座すべてに参加の場合 合計40,000円

◆参加手続

★参加申込書(1名に1通)に必要事項を記入の上、下記までFAXもしくは郵送でお申し込み下さい。

★第1講～第2講お申込みを受け付けた方には、整理券等必要書類をお送りします。

★第3講～第6講お申込みの方には、追ってカリキュラム内容等必要書類をお送りします。

★各講座とも定員になり次第締め切らせて頂きます。

宛先：「イベント学会・イベント大学事務局」

〒102-0082 千代田区一番町13 一番町法眼坂ビル1階

TEL03-5215-1680 FAX03-5215-1716



地域振興プロデューサー。1943年生まれ。ベルギー大学(イタリア)留学。(株)地域戦略研究所代表取締役所長。東京商科学院講師、(財)農林漁業体験協会主任研究員、イベント業務管理者の会事務局長。著書に『企業戦略とイベント』『イベント入門』『イベント企画の立て方・進め方』他がある。

「イベント学会を起こす」とは 「己が走る」こと

新藤健一郎

1960年代後半、ミラノにて多くの日本人医師団と会う。医師団はスイスの学会の帰途、ミラノ観光に立ち寄ったグループ等である。当時、学生であった私は日本語に飢えていて、日本人を探しては街のガイドを積極的に買って出たものである。私の「学会」のイメージはこの時代に構築されたのだろう。学会とは、専門分野において知識・技術の優れた選ばれた人たちの研究機関であると。学会は憧れのひとつであった。

私もイベントの業界で働く者としてイベント学会の設立を楽しみにしていた一人であるが、準備の噂が入ってくるたびに、私の期待する学会と異なっているのではないか、雑多(失礼)な発起人の名簿を拝見した時点では、「何をやる会?」「異業種交流会?」であった。

しかし、望月照彦さんの次の一言で私の学会の固定観念が変わってしまった。彼はこう言っている。

「まず、学会という概念を打ち破らなければならない。開かれた知のダイナミズムを生み出さなければならない」と。確かにそうだ。21世紀を迎える時代にあって新しいタイプの学会があってもよいではないか。学会に学生がいてもよいではないか。私自身、学生が卒業の際、「講師をしていてほんとうによかった。私も学ばせてもらった。ほんとうにありがとう」と毎年言っているではないか。

気がついたら素直になろう。望月さんの一言は私に大きな刺激を与えてくれた。この一言が私をイベント学会へ導いたと言っても過言ではない。私が事務局を担当する「イベント業務管理者の会」でも同様のことが言えるが、イベント学会をどのように起こしていくかは会員一人ひとりが、何をなすべきかということになる。

そして、会員一人ひとりが会の中に何を見出すかも会員の楽しみでもある。

「イベント学会を起こす」とは、学会が何かを与えてくれるのではなく、会員個々「己」が「走る」努力こそが基本と考える。取り組み方によってはおもしろくなる!



ソーシャル・マーケティング・プロデューサー。生活者の視点で企業活動、行政との関わりあい方をプロデュースする。分断された関係(生活者と産業社会など)を組み立て直し、互いにシェアしあえる社会の創出をめざす。(株)ライフ・カルチャー・センター代表取締役。著書に『普通の女達の昭和維新』他がある。

個人の生き方から ドラマは始まる

澤登信子

私は楽天的なオッチョコチョイの人間である。コト起こしを面白がり、気がつくといつも人の輪の中にいる。まさしく、典型的な日本人であろう。もともと日本人はお祭り好きな人種であると聞く。

催し物がイベントと称され、商業化されたのはいつごろからであろうか? 広告代理業が確立され、ビジネスとして成り立ち出してからなのか。

仕事柄、自ら開催したり、招かれたりしてイベントに参加する機会が多いが、熱くなったり、思い出に残るのは小さな催し物のほうが多い。関係する人々が単なる仕事としてかわるのではなく、気持ちが入り、本気になっているからであろう。お金、人、場所など限られた条件の中から、工夫し合い、助け合い、さまざまなモノを持ち寄った手づくりの催し物は多くの人々を感動させる。ホテルの豪華なパーティーよりも、里山で収穫した産物を木の葉や青竹の器に盛った手料理に、眠っていた細胞が目覚めます。

景気が低迷した今日、大型のイベントが少なくなっている。イベントのあり方が問われていよう。

淡々とした時の刻みの中に、気持ちを晴らしたり、新しい出会い、目標への突進など刺激的な時間を私たちは求めている。いくら情報化が進み、活字や電子媒体でコトが済んだとしても、心を晴れにしてくれる時間が人々には必要である。

高度情報社会が進展すればするほど、人々は暖かい、柔らかな関係を待ち望む。真に行動誘発してくれるのは、人と人とがもたらす五感コミュニケーションであり、自然との繋がりを確認できた時であろう。

イベントを仕掛ける個人の生き方からドラマは始まる。



江戸のイベント口事情 (三)

行列イベント

何しろ武家政権が自ら武装解除して江戸時代がはじまった。260余年にわたる平和は当然で、人類史上まれに見る快挙だと何かの本で読んだことがある。

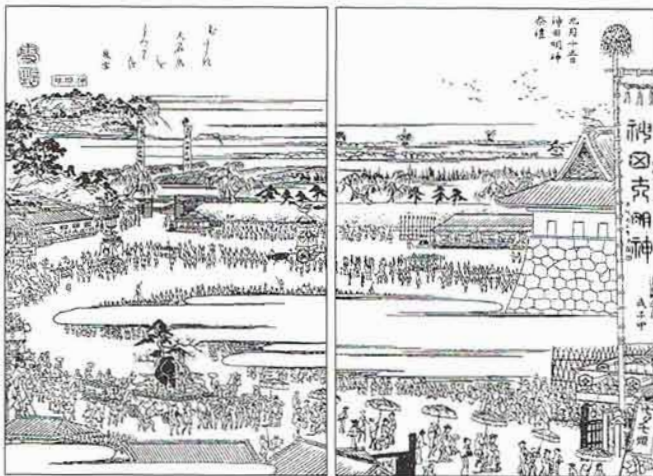
なるほど論理の飛躍は気がかりだが、結果論としてそうと言えなくもない。応仁の乱にはじまる戦国時代から、信長、秀吉、家康まで、世界に冠たる鉄砲保有国が、3代家光の頃には実用性の低い工艺品として、武家の飾りものになっていた。槍も刀も例外ではなかったらしいから、軍隊の移動であるべき参勤交替の大名行列は、一種の「仮装行列」だったと看破した人もいる。むろん諸大名の経済力を削ぎ、徳川家へ

の忠誠心を測るという目的があったであろうことに異存はない。しかしそれにしても諸般の事情から勘案して、永続きもし、また華美に過ぎていたように思えるのだが、いかがなものだろう。

たとえば加賀百万石の前田家では、行列の人数が少なくとも3000人。風呂桶から行水の水まで担いで歩いた。諸家に残る文書のうちには、金のかかり過ぎを嘆いて儉約に腐心しているものもあるが、一方で旅と行列を楽しんでいる日記も多いという。もともと祭好き、旅好きではなかったのか。街道筋で迎える庶民たちも、迷惑がっている関係者がいる一方で、弁当持参の見物客もいたらしい。なるほどこうなるとまさしく祭であり仮装行列である。

行列イベント。妙な言葉だが例年、4月と6月は日本中が賑わった。

そういえば3代家光の日光社参は前後10回。慶安元(1648)年の家康三十三神忌の折りには扈從するもの40万人弱。朝五ツ半(9時頃)に先頭が出発して、夕方になってもまだ最後尾は江戸城の中이었다。ただごとでない大イベントというべきである。



九月十五日 神田明神祭礼

(株)インタープラン代表取締役
日本大学芸術学部非常勤講師 園田榮治

INFORMATION

イベント学会入会のご案内

本学会は、事業として、①イベントに関する理論的研究・実証的調査研究 ②新しいイベント技法の研究・開発 ③イベント関連学術情報収集・研究発表・発刊 ④イベント研究団体・研究者の交流・協力を行ないます。

入会を希望される方は資料を下記の事務局にご請求下さい。なお、会費は次のとおりです。

	(1)入会金(円)	(2)年会費(円)
個人会員	5,000	10,000
準会員(学生・大学院生等)		2,000
自治体会員	20,000	50,000
法人会員(1口)	100,000	100,000

シンボルマーク制作の言葉

未来につながる言葉として、デザインとイベントがあると思う。デザインは精神性が強い言葉だ。イベントは肉体性が強い。この二つの言葉を合体させると新しい動きが出てくる。Eの字の中央線にマッチで点火した瞬間を表現した。イベント学会が爆発を起こす。



JAPAN INSTITUTE OF EVENTOLOGY
イベント学会

アートディレクター
浅葉克己

浅葉克己デザイン主宰、東京ADC委員、JAGDA理事、東京TDC会長、1940年生まれ。日清食品、西武百貨店、サントリーなどの広告を多数手掛け、日本の広告界をリードする。